



苧木だより

No.5

2012.6



■オーガニック・コットン栽培 ①

苧木の休耕田を活用して、戦前まで有明海沿岸で栽培されていた和綿を栽培するプロジェクトが始まりました。

5月6日（日）に種をまき、6月17日（日）には、草刈りと補植がおこなわれ順調に育っています。

11月の収穫まで順に報告していきます。



5月6日  種まき

ここにも畑がある



午前9時に約30人が集まった。



早速、耕運機や手鋤を使って2面ある下の畑から耕し始める。



一晩水にさらした和綿の種。



マルチに等間隔に10cmほどの穴を開ける。



盛土の上にビニールマルチを敷く。



深さ2～3cmあたりに3個づつ種を埋め込んでいく。



午後4時頃に終了！



9時に集合。この日は約 20 人が参加。



補植用の和綿のポット。



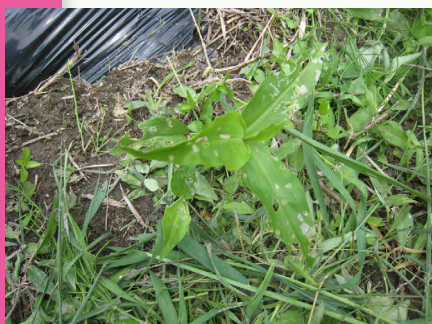
まずは、発芽している周りを草取り。



休憩中に皆でビワの恵みを頂いた。



発芽しなかったところに、穴を掘り、ポットをはずして植え込んでいく。



露草は天ぷらにして食べられるらしい。



りっぱな目印ができていました！



最後は、ひたすら草を刈り午前中で終了。

栽培のきっかけは？

若い世代に伝統文化を伝えていきたいと願っていた川副町で染織サークル「有明木綿」を営む村上さんが、NPO法人「地球市民の会」の富士町で活動している岩永さんに相談されたことがきっかけで、その思いに応えようと、また苧木の活性化にもつながればと、場所を提供したことで実現しました。

各地で試みる休耕田活用の取り組み

熊本県八代市では、イグサの休耕田として、菜の花を植えて、「菜の花ウォークラリー」を開催したり、菜種油の油かすを肥料としてつくる「菜の花米」のブランド化に成功。また、お隣の福岡市早良区大字西地区では、チューリップを植えて「チューリップ祭」を開催し、かしわめしや豚汁をふるまったり、農産物の販売もおこなっている。